

第 265 回新潟循環器談話会

日 時 平成 22 年 12 月 11 日 (土)
午後 3 時～6 時
場 所 新潟大学医学部
第 5 講義室

I. 一般演題

1 ビリルビンは HbA1C に独立に関係する

小田 栄司

たちかわ総合健診センター

【背景】非糖尿病成人において、HbA1C は空腹時血糖で補正しても心臓血管病と有意に関係するが、空腹時血糖は HbA1C で補正すると心臓血管病と有意に関係しないと報告されている。一方、ビリルビンは強い抗酸化物質であり、血清総ビリルビン値の低い人で心臓血管病の発生が多いことが報告されている。

【目的】血清総ビリルビン値と HbA1C の横断的關係を解析する。

【対象】人間ドックを受診して文書で研究に同意した男性 2,500 人と女性 1,680 人。

【方法】血清総ビリルビン値を従属変数とし、HbA1C を含む心血管危険因子を独立変数とした多変量線形回帰、および、HbA1C を従属変数とし、血清総ビリルビン値を含む心血管危険因子を独立変数とした多変量線形回帰を計算し、HbA1C $\geq 5.2\%$ (最大 4 分位群)、および、HbA1C $\geq 5.4\%$ (最大 10 分位群) を従属変数とした血清総ビリルビン値を含む心血管危険因子のオッズ比を計算した。

【結果】男女とも、HbA1C は、他の心血管危険因子と独立に血清総ビリルビン値に関係し、血清総ビリルビン値は、他の心血管危険因子と独立に HbA1C に関係した。男女とも、血清総ビリルビン値は、他の心血管危険因子と独立に HbA1C $\geq 5.2\%$ (最大 4 分位群)、および、HbA1C $\geq 5.4\%$ (最大 10 分位群) に関係した。

【結論】日本人成人において、ビリルビンは HbA1C に独立に関係した。

【臨床的示唆】非糖尿病成人における HbA1C と心臓血管病との関係に、ビリルビンが関与している可能性が示唆された。

2 産褥期に発症したタコツボ型心筋症の 1 例

飛田 一樹・小田 弘隆・大久保健志
佐藤 迪夫・池上龍太郎・小林 剛
保坂 幸男・土田 圭一・尾崎 和幸
高橋 和義・三井田 努

新潟市民病院循環器内科

症例は 30 歳代、女性。既往歴は妊娠糖尿病、発症 11 日前、骨盤位の切迫早産にて、当院産科緊急入院。4 日後、絨毛膜下血腫による貧血進行あり、緊急帝王切開術施行。術後は止血目的にエルゴメトリンを持続点滴としていた。術後 7 日目の午前に、子宮内血腫を認め、凝血を搔爬した。同日 21 時に突然の広範な前胸部痛を認めた。CT で肺塞栓症を否定し、心エコーにてタコツボ型心筋症を疑った。低容量ヘパリン持続点滴にて経過観察を行い、左室壁運動の改善を確認した。心臓カテーテル検査は施行せず、外来にて経過観察中である。

周産期にタコツボ型心筋症を発症する症例報告は散見されている。身体的、精神的ストレス以外に、周産期に固有な因子が関与しているかどうかは、今後の検討が必要である。

3 たこつぼ心筋症の急性期に一過性冠動脈閉塞を合併した 2 症例

山口 峻介・星野 虎生・小黒 武雄
中山 雅文・長尾 智美・斉藤 淳志
布施 公一・藤田 聡・池田 佳生
北澤 仁・高橋 稔・佐藤 政仁
岡部 正明

立川綜合病院循環器内科

〔症例 1〕40 代、女性。平成 16 年 10 月 23 日の中越地震以降、避難所にて生活をしてきたが、胸